月影

第４０号

みかえる心

なぜ、言ってしまったのか。
なぜ、言えなかったのか。

なぜ、してしまったのか。
なぜ、しなかったのか。

ふりかえると、
曲がりくねった自分の足跡と、
後悔の山。

次の一歩を、
まっすぐ踏み出すために。

ふりかえる。

お経の話　～何が書いてあるの？～

浄土宗西山勤行式（赤本）解説

別回向

来迎願王阿弥陀如来広大慈恩　十念
発遣教主釈迦牟尼如来広大慈恩　十念
高祖光明終南山悟真善導大師
上酬慈恩　十念
宗祖円光東漸慧成弘覚慈教明照
和順大師上酬慈恩　十念
派祖西山証空善慧弥天鑑知国師
上酬慈恩　十念
三国伝燈念佛弘通御祖師等上酬慈恩　十念
今日志　所精霊（法名）増上菩提　十念

別回向において阿弥陀さまを始め、お釈迦さま、歴代の祖師さまに対し回向をして、広大な慈悲と恩に酬（むく）います。

・来迎願王～　阿弥陀如来さまのこと。
・発遣教主～　お釈迦さまのこと。
・高祖光明～　善導大師のこと。
・宗祖円光～　法然上人のこと。
・派祖西山～　西山上人のこと。
・三国伝燈～　インド・中国・日本の三つの国の歴代の諸上人のこと。

そして、最後に「今日志す～」は、御命日の方、並びにご先祖さまの名を唱え、その冥福を回向します。

回向（えこう）とは、読経などで自分に得た善徳を、自分だけのものにしないで、ご先祖さまをはじめ、たくさんの諸精霊さま、また、法要に参列している人々に回し向けることを回向といいます。

そして、善徳だけにとどまらず、日々の幸せも、ご先祖さまに回し向けて、お陰さまと感謝をしながら生活していくのです。

仏事と作法

焼香（しょうこう）

お焼香は、葬儀や法事に必ず行われます。

右に抹香（まっこう）と呼ばれる、粉状の香を入れた香盒（こうごう）を置き、左に火種を入れた香炉を置きます。

このお焼香はお釈迦さま在世の頃から行われてきたと伝えられています。お焼香の香りは、お焼香をする人の身と心を清らかにするとともに、部屋のすみずみまで行きわたるところから、すべての人に平等に行きわたる仏の慈悲をたたえるためのものと言われています。

さて、お焼香の回数ですが、各宗派によって違います。

天台宗―三回。
真言宗―三回。
曹洞宗―原則は二回。
浄土真宗本願寺派―一回。
浄土真宗大谷派―二回。
日蓮宗―特に決まりはないが、ふつう一回。
浄土宗―特に決まりはない。

※焼香回数を大まかに記しましたが、宗派の中の各派でも、多少の違いがあるかもしれません。

私たちの宗派については、特別回数に決まりはありません。

参列者が多い時は一回、少ない時は二、三回というように、その時の状況に応じて回数を変えることもあります。

ただ、お焼香をする時は、右手で香を軽くつまみ、左手をそえるようにして額（ひたい）のところまで香をいただいてから香炉へ薫じます。

仏事の作法というものは、宗派によって様々です。あまり、作法にこだわりすぎて、お焼香の回数にばかり気持ちがとられ、肝心の仏さまへの気持ちを忘れてしまっては、お焼香の意味がうすれます。大切なのは、この香りを仏さまに届けようという気持ちで香を薫じることと思います。

秋の彼岸会

いつもお世話になり、有難うございます。
さて、秋の彼岸会を厳修いたします。
ご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、お参りくださいますよう、御案内申し上げます。

記

日時　九月二十四日（土）

午後一時　彼岸会法要
午後二時　お説教
高槻　浄圓寺
三輪真明 師
午後三時　観音講御詠歌

場所　常林院本堂

住職

雑記抄

今年も暑いお盆が終りました。

毎年、お盆の十五、十六日は組寺五ヶ寺でお施餓鬼法要を勤めます。

十五日は牛ケ瀬の称讃寺と下津林の長福寺。十六日は西ノ庄の西福寺と中河原の安楽寺、そして常林院。

各お寺によって、法要の運営方法や、お勤め時間はまちまちですが、ご先祖さまに感謝をし、心を込めて供養されるお檀家さんの姿は、どのお寺でも同じです。

一年に一度ご先祖さまがお浄土から帰ってこられるお盆は、一年に一度、私たちがご先祖さまと向き合う良い機会です。

ご先祖さまから受け継がれてきた命のご縁を、今、自分が受け継いでいることを確認し、感謝できる行事です。

この行事を次の世代にもしっかりと伝えていきたいものです。

平成二十三年九月一日発行
浄土宗西山禅林寺派
常林院